

科目名	高次脳機能障害治療学			授業の種類	講義	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	担当学年 時期	2年 前期
【授業の目的・ねらい】 高次脳機能障害の各障害についての病巣部位と症状、評価・評価法、介入方法を学び、説明することができる。 また、臨床場面で適切な評価が行え、障害像を捉えて適切な治療を行うことができる。								
【実務者経験】 作業療法士として順心リハビリテーション病院に勤務、身体障害領域の幅広いリハビリテーションに従事経験。								
【授業全体の内容の概要】 作業療法士として必要な高次脳機能障害の知識・技術を教科書と資料を交えて学習していく。また、理解を深めることと知識を定着させるために確認テストを適宜実施していく。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ①高次脳機能障害のそれぞれの障害・症状について説明することができる。 ②各症状に対する評価の意義・目的を説明でき、評価に必要な知識・技術を身につける。 ③臨床場面で症状に適した評価を選択し、障害を捉えて治療に結びつけることができる。								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	オリエンテーション、高次脳機能障害とは						教科書、資料、ノート	
2	注意機能障害						教科書、資料、ノート	
3	注意機能障害						教科書、資料、ノート	
4	記憶障害						教科書、資料、ノート	
5	記憶障害						教科書、資料、ノート	
6	言語障害（失語）						教科書、資料、ノート	
7	言語障害（失語）						教科書、資料、ノート	
8	行為・行動障害（失行）						教科書、資料、ノート	
9	行為・行動障害（失行）						教科書、資料、ノート	
10	対象認知の障害（失認）						教科書、資料、ノート	
11	対象認知の障害（失認）						教科書、資料、ノート	
12	半側空間無視						教科書、資料、ノート	
13	半側空間無視						教科書、資料、ノート	
14	遂行機能障害						教科書、資料、ノート	
15	社会的行動障害						教科書、資料、ノート	
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 高次脳機能障害学 第3版 石合 純夫								
【準備学習・時間外学習】 必要に応じて予習・復習を行う。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 試験は小テストを30点、定期試験を70点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する								